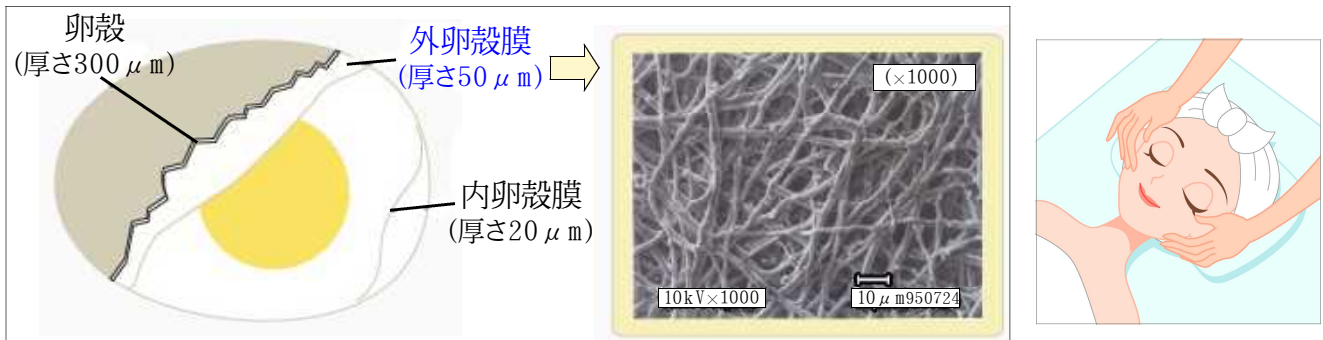


“卵殻膜”を ご存じですか…？

「卵殻膜」の主成分は、20種類のアミノ酸で構成された“ペプチドタンパク質”です。
(胃酸で分解された状態)



古くからそのすばらしい効能が認められていた「卵殻膜」ですが、科学的に本格的な研究が開始されたのは、21世紀に入ってからです。「卵殻膜」とは、鳥類の“卵”の内側の薄い膜です。「卵殻膜」を食べると、肌の“真皮層”において「Ⅲ型コラーゲン」の生成を促進し、赤ちゃんのようなハリがあってシワのない肌を取り戻す働きをもっています。この「卵殻膜」を傷に貼り付けると回復が早いので、現役の力士の常備薬としても活躍しています。

卵殻膜の主成分は、20種類のアミノ酸で構成された“ペプチドタンパク質”です。



従って、胃腸の働きが低下した“高齢者”にも最適なタンパク源です。しかも、その組成は人間の皮膚のアミノ酸組成と非常に近い構成です。更に、「コラーゲン」や「ヒアルロン酸」を生産する“線維芽細胞”を増やす作用があります。お肌の70%は、Ⅰ型とⅢ型コラーゲンで構成されています。特に、お肌の弾力性を保つⅢ型は“ベビーコラーゲン”と云われ、赤ちゃんのお肌に最も多く含まれています。

水に溶ける「卵殻膜」は、コラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸を作る、自分の「線維芽細胞」そのものを増やしてくれる栄養素なのです。

ヒトの「線維芽細胞」を培養皿で、2日間培養した結果、「卵殻膜」で、「線維芽細胞」が増殖しました。(右図)

